

## 今月の重点活動

### ■水稲 共同防除でドローンが活躍

9月10～11日、瑞穂市において、ハツシモの出穂後のいもち病と斑点米カメムシ類防除を行った。瑞穂市ではハツシモを中心とした稲作が行われており、出穂後の本田防除は瑞穂市共同防除協議会が広域防除を実施している。農業普及課は協議会の事前打合せ会議に出席し、防除日程や使用農薬の指導を行った。

当日の薬剤散布にあたっては、ラジコンヘリだけでなく市内農業法人が所有するドローンも使用し、約9haの防除を行った。ドローンはラジコンヘリに比べると作業効率が劣るものの、バッテリー駆動による低騒音や低空飛行による農薬飛散低減等のメリットがあった。このことから、ドローンは住宅や樹園地付近の水田防除に有効であることが確認できた。

今後、農業普及課では、ドローンの防除効果を確認するとともに各種スマート農業技術の普及を支援していく。



【ドローンを用いた防除】

(地域支援第三係・松本政行)

## 安心で身近な「ぎふの食」づくり

### ■羽島市水稲種子採種組合 ハツシモの出穂期審査を実施

9月3日、羽島市水稲種子採種組合の採種ほ場（小熊地区、足近地区、桑原地区、合計8.15ha）において、ハツシモの出穂期におけるほ場審査を行った。

当日は、審査員資格を持つ普及指導員がJAの担当営農指導員（審査補助員）の協力を得て全筆を巡回し、異形の稲株や病害虫発生の有無、雑草等の栽培管理状況を審査した。各ほ場ともに生育の揃いが良く、穂の汚れや雑草も少なかったことから、全筆合格とした。

今後も、農業普及課では、高品質な種子生産に向けて支援していく。



【採種ほ場】

(地域支援第二係・木村裕子)

### ■直売所 改正食品衛生法を学ぶ（山県市）

9月16日、JAぎふ高富支店において、JAぎふ主催の産直出荷者研修会が開催され、直売所出荷者や関係機関担当者が33名参集した。

研修会では、JAぎふ担当者から、今年7月に開設した山県ばすけっとの販売状況、本巢・山県保健センター担当者から、食品衛生法の改正、HACCPに基づく衛生管理、食品衛生責任者の設置について説明があった。改正食品衛生法では、食品を扱う事業者に対して新たに営業届の提出が必要となった。農業普及課では、山県市の特産品である黒にんにくの生産者用のHACCPに基づく衛生管理計画書や記録表の様式を作成し、配布した。

今後、農業普及課では、農産加工を行う生産者に対してHACCPの考え方を取り入れた衛生管理への取り組みを支援していく。



【研修会の様子】

(地域支援第三係・河合浩子)

## ■水稲 「岐系207号」の収穫作業が行われる

今年度、岐阜市、羽島市、本巣市において、「岐系207号」が試作され、9月27日までに刈取が終了した。

管内では5農業法人と2農家がオーダーメイド型米産地づくり研究会に加入し、本品種を栽培している。「岐系207号」は県農業技術センターで育成された品種で、コシヒカリ並の熟期で高温や倒伏に強い特性がある。これまで農業普及課では、県農産園芸課や農業技術センターと連携して、栽培管理指導やオーダーメイド型米産地づくり研究会の活動を支援してきた。

今後、農業普及課では、収穫前に行った坪刈調査も含め、各種調査を通じて「岐系207号」の作柄を確認していく。



【岐系207号の収穫作業】

(地域支援第三係・松本政行)

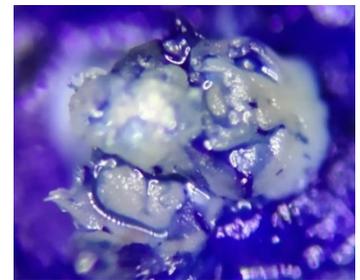
## ぎふ農畜産物のブランド展開

### ■いちご 花芽検鏡を実施

8月30日以降、農業普及課では、管内産地のいちご苗花芽検鏡調査を実施している。実体顕微鏡を使って苗の花芽分化状況を確認し、この結果に基づいた最適な定植や施肥の開始時期を生産者に指導している。

いちごの生産安定において、土耕栽培では定植時期、高設栽培では給液開始時期の決定が重要であり、その後の生育に大きく影響する。今年は8月中旬、9月上旬の気温が低く推移したことから、花芽分化が早く、今後の天候によっては、生育の早いほ場の収穫が10月下旬頃から始まる可能性がある。

今後、農業普及課では、生育に合わせた栽培管理指導を行っていく。



【花芽分化の様子】

(園芸産地支援第一係・菊井裕人、園芸産地支援第二係・若原浩司)

### ■えだまめ 来年度作付計画を検討

9月14日、JAぎふ島集出荷場において、島園芸振興会支部長会が行われ、来年度のえだまめ作付け計画が検討された。

農業普及課からは、従来品種の早まきおよび遅まき試験、多収が期待できる有望品種試験の結果について説明した。作付け計画は品種ごとに播種期間等が検討され、10月末に開催されるえだまめ部会役員会で提案することとなった。

今後、農業普及課では、関係機関と連携して安定生産のための支援を行っていく。



【試験の様子】

(園芸産地支援第一係・岡田隆史)

### ■カキ 「早秋」の目揃会を開催

9月24、26、29日、JAぎふ管内選果場などにおいて、「早秋」の目揃会が開催された。今年は、着色が早く、出荷は平年より1週間ほど早い見込みである。

目揃会では、農業普及課から、病虫害の発生状況や当面の栽培管理を説明した後、振興会役員およびJA担当者から、選果規格の説明および家庭選果の徹底を行った。

今後、農業普及課では、栽培管理や収穫作業等について指導し、高品質果実の出荷に向けて支援していく。



【目揃会の様子】

(園芸産地支援第二係・鈴木哲也、小枝俊仁)